

精神看護方法論(看護学科3年次)の授業紹介

～精神障害を乗り越えて地域で暮らす当事者の方が、
今年も教室に来てくださいました！～

平成23年6月7日(火)の講義に、名護市にある地域生活支援センター「ウェーブ」から安村所長さんと3人の当事者のみなさんが来てくださいました。

これまでの講義ではテキストを中心に精神疾患とそれに対する看護の実際を学んできましたが、精神病とつきあいながら生活するってどういうことなのか、どうしようもなく理解できない思いがいつも学生たちの中にありました。

この日は「当事者による体験談」をテーマに、3人の方が病気を発症してからこれまでのことをありのままに語ってくださいました。何がきっかけで病気になったのか、一番しんどい時期には何が起きていたのか、またそれに対してどうしていたのか、どのように回復していったのか…。初めての話に学生は集中して聞き入り、「私たちは看護職として何をしたらいいんだろう？」と考えずにはおれません。しかし、3人のお話の前に地域での支援活動の実際について、学生をリラックスさせながらも丁寧に説明してくださったり、3人の当事者の方をさりげなくサポートし、話しやすいように関わっている安村所長さんの姿がモデルとなり、“あんなふうにやってみよう”とひとつの答えも見つけられました。

今はそれぞれ充実した生活を送られている3人から「優しいナースになってください」「親身になって話を聞いてほしい」「明るいナースがいるだけで気持ちが変わる」などのメッセージをいただき、学生たちは看護師に対する決意を新たにした貴重な時間となりました。さらに「みんなきれいでキラキラして、ものすごいエネルギーを感じる」と言われて、学生もエネルギーをもらい、教室の中は不思議な対流が生まれていました。

講義終了後のレポートには「辛い体験を乗り越えた強さがある」「みんな優しい」「病気を乗り越え幸せに生活していることを聞いて嬉しかった」など多くの学びが書かれていました。安村所長さん、当事者のみなさん、来てくださってありがとうございました。

これからも地域の中で、学生、教員、そして地域の人々が協働参画による学びの「場」、保健・医療・福祉の「場」づくりに努めていきたいと思っています。

(精神看護学担当 鈴木・伊礼・平上)



幸せなプライベートや笑いもある話に引き込まれました



質問する学生も真剣です